

大会企画シンポジウム

3月18日(土) March 18, Sat. 15:10-17:00

B会場 (C棟2F・C200)

SA1 グリア微細形態ダイナミズムから読み取る脳と心の機能の全身性

座長：松井 広 (東北大学)
田中 謙二 (慶應義塾大学)

SA1-1 グリア依存的/非依存的な脳の細胞残骸除去システム

○小西 博之¹、木山 博資²
¹名古屋大・院医・機能組織学

SA1-2 成体ミクログリア-ニューロン相互作用を介したスパインシナプス除去メカニズムの解明

○安本 有希、Tamas L. Horvath
Dept Comparative Medicine., Yale Univ. School of Med

SA1-3 運動学習とシナプス微細形態変化を支えるグリア貪食

○森澤 陽介^{1,2}、松井 広²
¹コロンビア大・医・麻酔科、²東北大・生命科学・超回路脳機能

SA1-4 シナプス局所的なアポトーシスがミクログリアによるシナプス貪食を促進する

○安藤 めぐみ¹、小山 隆太^{1,2}
¹東京大・院薬・薬品作用学、²Beyond AI

SA1-5 The cellular dynamics and mechanisms underlying microglial colonization into the embryonic cerebral wall

○Hattori Yuki
Nagoya Univ. Grad. Sch. of Med., Dept. Anat. Cell Biol.

概要 大会企画シンポジウム 1

学術変革領域研究 (A) 「グリアデコーディング」連携シンポジウム。脳内には神経細胞以外にミクログリアやアストロサイトが存在し、脳内免疫機能、不要な細胞片の貪食除去、エネルギー代謝の調整を行なっていることが知られている。これらグリアによる脳内環境の調節は、神経細胞の生存と機能を支えるために必須である。しかし、近年、本来、神経細胞のみ担うと考えられて来た情報処理回路にも、グリアの影響があることが明らかになってきた。特に、神経回路が変化する可塑性や記憶などにグリアからの働きかけがあり、神経回路の望ましくない変化、病態、神経疾患にもグリアが関わる可能性が指摘されている。本シンポジウムでは、国内外の新進気鋭の若手研究者を招聘して、グリア研究の最前線を紹介する。グリアの微細形態のダイナミズムからグリア機能を読み取り、脳と心の機能の全身性を理解する試みに挑戦する。

3月19日 March 19, Sun. 9:00-10:50**B会場 (C棟2F・C200)****SA2 放射光が照らす解剖学の未来予想図**

座長：権田 幸祐 (東北大学)
西堀 麻衣子 (東北大学)

SA2-1 金ナノ粒子を用いた腫瘍組織のX線イメージング○権田 幸祐^{1,2}¹東北大・医・医用物理学、²東北大・SRIS**SA2-2 放射光による組織イメージングの最前線**○矢代 航^{1,2,3}¹東北大・国際放射光センター、²東北大・多元研、³東大・物工**SA2-3 放射光を使ったがん病理組織解析 ～抗がん剤のヒト腫瘍内分布の可視化～**

○西堀 麻衣子

東北大・SRIS

SA2-4 放射光を活用した細胞・組織イメージング

○八木 直人

(公財)高輝度光科学研究センター、(一財)光科学イノベーションセンター

概要 大会企画シンポジウム 2

現在、東北大学青葉山新キャンパス内にて、2024年度の運用開始に向けて次世代放射光施設「ナノテラス」の整備が進められています。本シンポジウムでの演者は、ナノテラスの新しい光を活用し、ライフサイエンスの新領域開拓に寄与可能な細胞や組織のイメージング技術の開発や応用を進めています。本シンポジウムでは、放射光を含むX線イメージングを解剖学へ展開してきた各講演者の実例を紹介し、解剖学の未来を放射光は明るく照らすことができるのか、その可能性や課題を考えたいと思います。

3月19日 March 19, Sun. 15:10-17:00**B会場 (C棟2F・C200)****SA3** プリオン病を知り、備える

座長：堂浦 克美 (東北大学)
弦本 敏行 (長崎大学)

SA3-1 プリオンの概要

○堂浦 克美
東北大・医・神経化学

SA3-2 プリオン病のサーベイランスと臨床

○山田 正仁^{1,2}
¹九段坂病院・内科 (脳神経内科)、²東京医科歯科大・脳神経病態学 (脳神経内科)

SA3-3 高感度プリオン検出系RT-QUIC法を用いたスクリーニング検査

○西田 教行、中垣 岳大、金子 美穂
長崎大・医・感染分子解析学

SA3-4 プリオン病の病理と病理解剖における感染対策

○岩崎 靖
愛知医大・加齢研・神経病理

SA3-5 プリオン病：現場での経験と対策

○高村 敬子^{1,2}、佐伯 和信¹、遠藤 大輔^{1,2}、村井 清人¹、中垣 岳大³、西田 教行³、弦本 敏行^{1,2}
¹長崎大・院医歯薬・肉眼解剖学、²長崎大・医・CSTセンター、³長崎大・院医歯薬・感染分子解析学

概要 大会企画シンポジウム 3

「献体脳から病原性プリオンタンパク質が検出されたとの報告は、献体遺体を扱う教育や研究にたずさわる方々に大きな驚きと不安を与えることになりました。本シンポジウムは、皆様に、プリオンやプリオン病についての理解を一層深めていただく機会を提供するだけでなく、皆様とプリオン病のエキスパートが一緒になって、献体遺体を扱う上での適切な備えや今後の取り組みについて考え議論する機会となるよう企画いたしました。

指定シンポジウム

3月18日(土) March 18, Sat. 9:00-10:50

B会場 (C棟2F・C200)

SB1 オルガネラや細胞膜の特殊化した膜領域「ゾーン」研究の最前線 (日本生理学会連携シンポジウム)

座長：原田 彰宏 (大阪大学)
深田 正紀 (生理学研究所)

SB1-1 走査電子顕微鏡技法 - オルガネラの3Dイメージング -

○甲賀 大輔¹、久住 聡²、森永 涼介¹、渡部 剛¹
¹旭川医大・医・顕微解剖学、²鹿児島大・院医歯・形態科学

SB1-2 脂質交換輸送ゾーンの制御と機能

○中津 史
新潟大・医・分子細胞機能学

SB1-3 明らかになってきたオルガネラコンタクトサイトの動的性質

○田村 康
山形大・理

SB1-4 ゴルジ体の基本構造と、その内部における糖鎖合成酵素の分布と動態の解明

○原田 彰宏
大阪大・院医・細胞生物学

SB1-5 シナプスのナノ構築機構と病態

○深田 優子^{1,2}、横井 紀彦^{1,2}、宮崎 裕理^{1,2}、深田 正紀^{1,2}
¹自然科学研究機構・生理研・生体膜、²総研大・生命・生理

概要 指定シンポジウム 1 日本生理学会連携シンポジウム

従来、様々な細胞内オルガネラの表面の膜は均一と思われてきた。しかし、近年オルガネラや細胞膜の特殊化した膜領域「ゾーン」がオルガネラ間の相互作用や単一オルガネラの様々な異なる機能に重要な役割を果たすことが明らかとなってきた。本シンポジウムでは生理学会員・解剖学会員を中心とする演者にオルガネラの「ゾーン」についての解剖学・生理学・生化学的な最新の知見をご紹介頂き、両学会の学術交流を更に広げ、解剖学会員の研究の発展に資することを目的とする。本シンポジウムは生理学会連携シンポジウムとして開催予定である。

3月18日 日 田 March 18, Sat. 9:00-10:50**C**会場 (B棟2F・B200)**SB2** 若手や学生のキャリア上の不安や疑問に答えるシンポジウム
(若手育成委員会／若手研究者の会)座長：武井 陽介 (筑波大学)
近藤 誠 (大阪公立大学)**SB2-1** 若手の悩みアンケート調査結果 (若手研究者の会)○近藤 誠
大阪公立大・院医・脳神経機能形態学**SB2-2** 総合討論 (若手育成委員会)○武井 陽介
筑波大・院医・解剖学**概要** 指定シンポジウム **2** 若手育成委員会／若手研究者の会

今年度を実施した若手の悩みアンケートの結果をもとに、若手や学生のキャリア上の不安や疑問を抽出し、様々な視点から皆で討論を行います。

若手育成委員会と若手研究者の会の共同企画シンポジウムです。

3月18日 日 March 18, Sat. 15:10-17:00

C会場 (B棟2F・B200)

SB3 CST実施におけるボトルネックの解消法を探る part5 (解剖体委員会)

座長：大塚 愛二 (岡山大学)
北田 容章 (関西医科大学)

SB3-1 献体による外科手術手技研修に関するアンケート調査結果から見えるボトルネック

○木山 博資
名古屋大・医・機能組織学

SB3-2 CSTに対する行政からの期待

○大高 俊一
厚生労働省・医政局・医事課

SB3-3 持続可能なCSTのシステム構築

○七戸 俊明^{1,2,3}、村上 壮一^{1,3}、平野 聡³、渡辺 雅彦⁴
¹北海道大・病院・先端医療技術教育研究開発センター、²北海道大・病院・医療機器開発推進センター、
³北海道大・医・消化器外科学教室II、⁴北海道大・医・解剖発生学

SB3-4 徳島大学病院クリニカルアナトミー教育・研究センターの現状と展望

○金山 博臣^{1,2}、赤池 雅史^{1,3}、富田 江一^{1,4}、鶴尾 吉宏^{1,5}、西村 明儒^{1,6}、西良 浩一^{1,7}、和田 佳三¹
¹徳島大学病院 クリニカルアナトミー教育・研究センター、²徳島大学大学院医歯薬学研究部 泌尿器科学、
³徳島大学大学院医歯薬学研究部 医療教育学、⁴徳島大学大学院・医歯薬学研究部 機能解剖学、
⁵徳島大学大学院医歯薬学研究部 顕微解剖学、⁶徳島大学大学院・医歯薬学研究部 法医学、
⁷徳島大学大学院医歯薬学研究部 運動機能外科学

SB3-5 2022年度岡山大学臨床応用解剖の運営と技術職員の役割

○小見山 高明、大杉 博幸、檜崎 正博、亀岡 俊也、川口 綾乃
岡山大・院医歯薬・人体構成学

SB3-6 東京医科大学におけるCST運営と解剖学教室としての役割

○河田 晋一¹、本間 宙²、伊藤 正裕¹
¹東京医大・医・人体構造学、²東京医大病院・救急災害医学

概要 指定シンポジウム3 解剖体委員会

日本解剖学会と日本外科学会が共同で作成した「臨床医学の教育及び研究における死体解剖のガイドライン」が平成24年に公表されて以降、本邦におけるご遺体を使用した手術手技研修 (CST) は普及しつつあるが、未だ開催に至っていない大学もある。本シンポジウムでは、厚労省および日本外科学会からCSTの普及と実施に関わっている演者にもご登壇いただき、わが国のCSTに関する現状と課題を共有するとともに、CSTの実施と普及におけるボトルネックとその解消法について議論する機会としたい。

3月19日回 March 19, Sun. 9:00-10:50

C会場 (B棟2F・B200)

SB4 解剖学教育の様々な問題に向き合う (教育委員会)

座長：吉田 成孝 (旭川医科大学)

SB4-1 組織学教育の現状と問題点 - 琉球大学の取り組み -

○高山 千利

琉球大・医・分子解剖学

SB4-2 解剖学教育の様々な問題に向き合う：持続可能な解剖学教育に向けて

○西 真弓

奈良県立医大・第一解剖学

SB4-3 基礎医学教育と研究医養成から見た新モデル・コア・カリキュラム

○鈴木 敬一郎

兵庫医科大学・医・生化学

SB4-4 カリキュラムオーバーロード時代に新モデルコアカリキュラム(令和4年度版)の主要コンピテンス修得の鍵となる解剖学学修の重要性を考える○長谷川 仁志¹、板東 良雄²、八月朔日 泰和³¹秋田大・院医・医学教育学、²秋田大・院医・形態解析学・器官構造学、秋田大・院医・細胞生物学**概要** 指定シンポジウム4 教育委員会

解剖学教育の遂行にあたって、他の医療系、生物系教育には見られない独自の問題点や悩みがある。膨大な教育内容があることにより、実習を含む授業時間が膨大であるにもかかわらず、教員数は削減傾向にあり、担当教員はどのように効率的に教育していくことが大きな問題である。今回のシンポジウムは、これらの問題の解決の糸口を様々な観点から探していきたい。

3月19日 March 19, Sun. 15:10-17:00**C会場**(B棟2F・B200)**SB5** ティータイム研究者交流会(男女年齢不問、子連れOK交流会)(若手研究者の会)

共催：若手育成委員会・ダイバーシティ推進委員会

座長：江角 重行(若手研究者の会 懇親会・総会担当/熊本大学)

SB5 ティータイム研究者交流会(男女年齢不問、子連れOK交流会)

○江角 重行

若手研究者の会・懇親会・総会担当、熊本大学大学院・生命科学研究所

概要 指定シンポジウム **5** 若手研究者の会

この交流会は子育てをされている若手の会の女性研究者の方から頂いた“デイタイムでの交流会を企画して欲しい”とのご意見をもとに企画しました。大学での担当教科、コロナ禍での教育や講義について、悩み事(育児と研究の両立、教育と研究のバランスなど)、共同研究の提案など、気軽に雑多な内容の雑談をしましょう。昨年はZoom開催となりましたが、今年は対面で、お会いして交流できるのを楽しみにしています。
*若手育成委員会、ダイバーシティ推進委員会と共催

3月20日 March 20, Mon. 9:00-10:50**A会場**(メディア棟・M206)**SB6** 人工知能が拓く新たな顕微鏡イメージング(日本顕微鏡学会連携シンポジウム)

座長：岡田 康志(東京大学)

窪田 芳之(生理学研究所)

SB6-1 自動1分子イメージング法の開発と創薬基盤技術への展開○上田 昌宏^{1,2}¹大阪大・生命機能、²理研・BDR**SB6-2** 連続電子顕微鏡画像のDeep-learningを用いた解析○平林 祐介¹、菅 翔吾¹、中西 優¹、中村 航規¹、柴山 光耀¹、Bruno Humbel²、河合 宏紀¹¹東京大・工・化学生命工学、²沖縄科学技術大学院大・イメージングセクション**SB6-3** 大容量電子顕微鏡画像データとコネクストミクス○窪田 芳之^{1,2,3}、川口 泰雄⁴¹生理研・電顕室、²総研大・生理、³理研CBS・電顕ユニット、⁴玉川大・脳研**SB6-4** 機械学習・人工知能を活用したライブセルイメージング

○岡田 康志

理研・BDR、東大・院医・細胞生物

SB6-5 細胞画像とAI -形態情報の可能性に挑む-

○山本 陽一郎

理研・AIPセンター・病事情報学

概要 指定シンポジウム **6** 日本顕微鏡学会連携シンポジウム

近年の人工知能(AI)の進歩によって、AIは特定の分野で人を凌駕する性能を発揮すると同時に、様々な活動において欠くことのできないサポートツールとして利用されている。本シンポジウムでは特に顕微鏡データの取得や解析におけるAI関連技術の最新の知見を共有し、その有用性と可能性について議論する。

3月20日 日 月 March 20, Mon. 9:00-10:50**B会場** (C棟2F・C200)**SB7** 医療専門職養成校(課程)における解剖学教育に関するワークショップ
(医療職専門職教育委員会)座長：笹野 泰之(東北大学)
金澤 寛明(トヨタ看護専門学校)**SB7-1** 看護師養成課程における解剖学教育○金澤 寛明
トヨタ看護専門学校**SB7-2** 理学療法士養成校における解剖学教育の現状と未来に向けた課題○浦川 将、藤田 直人
広島大・医・保・運動器機能医科学(理学療法学専攻)**SB7-3** 薬剤師養成課程における解剖学教育○黒岩 美枝
横浜薬科大・薬・機能形態学**SB7-4** 歯科衛生士養成課程における解剖学教育○吉田 賀弥
徳島大・歯・口腔保健**概要** 指定シンポジウム7 医療職専門職教育委員会

日本解剖学会医療専門職教育委員会が主催するワークショップ。演者に各医療専門職養成課程における解剖学教育の取り組みについて紹介いただき、情報共有の機会とすることを目的とする。